

## 本会の動き

### ☆2025年 第51回経営ゼミナールに参加して☆

今回参加させて頂いた経営ゼミナールは、化学工学会が提供する技術者の生涯学習の一環として1975年から続く歴史あるゼミナールです。第51回目となる今年は「シン・社会へのリジェネレーションを起こせ！～自らを変え、組織を変革する～」をテーマに化学会社、石油会社、エンジニアリング会社などのマネジメント層を中心に46名が参加いたしました。

ゼミナールは8月から11月にかけて4回のセッションで進められ、各分野において著名な講師の方々によるテーマに沿った講演とグループ討議で構成されておりました。全てのセッションでオンライン開催であり、対面での本音の議論を通じて、新たな気づきや多くの学びが得られる絶好の機会となりました。

グループ討議はまず第1回セッションに於いて事前アンケートに基づいて同じテーマを課題と考えているメンバーを中心に6グループに分かれ、各自の悩み、課題について共有し合い、各グループで解決すべき課題を設定しました。第2回、第3回セッションでは、課題解決のヒント探しとして、ランダムな人選でグループを構成し、「組織のあり方・リーダーシップ」「技術の継承・イノベーションの取り組み」「人材育成・モチベーションアップ」「社会課題への対峙、事業展開」をテーマに多くの意見交換を行いました。最終セッションでは第1回セッションのグループに戻り、これまでのセッションで得た知識や気づきを基に設定した課題の解決に向けたグループ毎の決意宣言をまとめ上げ、発表いたしました。

我々のグループでは、各自が所属する企業・部署におけるパフォーマンスの源泉となる人材に関して、その一人ひとりを輝かせる(モチベーションアップ)ため、私たちがどのようなリーダーシップを発揮していくべきかについて話し合いを行い、正直さや気配りを持って心の距離を近づける努力を惜しまないこと、共通ビジョン・目標を明確とし情熱を持って語り続けること、ワクワクできるテーマ設定を行うこと、健全な危機感を共有できる機会を提供すること、部下の能力と成長期待に応じたテーマ付与を行うことを決意宣言として纏めることができました。

様々な業種・職種（製造技術、設計、研究、営業、人事）の参加者の方々の討議では、会社や立場は違えども同じような悩みごとや課題意識を持たれている状況を共有できたことに加え、各企業・部署での先進的な取り組みや工夫についてもお聞きすることができ、多くの気づきを得ることができました。また、自身の悩みや課題を説明する過程で、耳を傾けて熱心に聞いて頂き、様々なアドバイスを頂けたことで、今後の新たな決意や取り組みの反省に繋げることができました。

更に、セッションが進むにつれて参加者同士の交流も深まり、ゼミナール終了後も連絡を取り合い相互に高め合いながら自己研

鑽していくことを約束するなど、シン・社会へのリジェネレーションに共に挑戦していく素晴らしい仲間に出会えたことに感謝感激いたしております。

各セッションでは、VUCA時代におけるリーダーのあるべき姿や、なすべきことのヒントとなるテーマについて多岐にわたる視点から計9回の講演を聴講させて頂きました。どの講師の方々からも溢れる情熱、強い信念がひしひしと伝わってきました。その中でそれぞれのテーマに沿った講演内容で、リーダーとしての考え方に限らず、実に多くのキーワードやアドバイスをいただき、多くの貴重な気づきを得ることができました。以降、各々の講演について振り返ってみたいと思います。

#### 【東海セッション 8/29～8/30

#### 邦和セミナープラザ(名古屋)

##### ◆「町工場から宇宙へ！「まいど1号」打ち上げ奮闘記」

(株)アオキ 取締役会長、東大阪市モノづくり親善大使  
青木豊彦氏

大阪府東大阪市の中小企業の技術力を結集して人工衛星「まいど1号」を打ち上げたプロジェクトの中心人物であり、自らの行動で道を開くことや仲間を作って大きな夢を実現することの価値と意義を熱く熱く語って頂きました。その中で、社員も含めた仲間との共通目標の共有化のポイントは、相手の立場に立って時には厳しさをもって正直に伝え続けることであり、そのことは我々に対しても講演中に身をもって体現して頂き、温かな御人柄に加え、愛情と熱量に圧倒されたことが非常に印象的でした。



##### ◆「グローバルな視点で考える日本企業の進路」

日本オラクル(株) 取締役会長 藤森義明氏  
講師自らのグローバル企業での経営経験を踏まえた、日本企業の持続的な成長戦略に関する講演であり、特に伝説の経営者「ジャック・ウェルチ氏」から直接学んだリーダーシップ理論が参考になりました。その中で人的投資の重要性と、リーダーの条件は変革を起すこと・人材を集めて育てることであり、なぜ変革が起きないか、変革を起すためのプロセスやそのために必要なスキルなど我々が今後取り組んでいくべき事項のヒントを与えて頂き、大変参考になりました。

【湘南セッション 9/26～9/27】

【IHIグループ人材開発センター I-STEP 湘南(横須賀)】



◆「女性活躍は“やさしさ”ではなく，“経営戦略”です」

(株)ジャパンウーマンソサエティ 代表取締役 横山実代 氏  
 開業医であるご主人との結婚を機に、クリニック経営に携わりゼロから挑戦し自立できたご自身の経験談や女性視点でのモチベーションアップに関する講演でした。特に義母との生々しい嫁姑問題から得られた気づきとして、頼まれごとは試されごと、自分にできることを考える、過去と他人は変えられないので自分や捉え方を変えるなど、物事をプラス思考に変換する心のあり方を大切にされていることが大変参考になりました。



◆「世界の経営学から見た日本企業イノベーション創出への示唆」

早稲田大学大学院経営管理研究科

早稲田大学ビジネススクール教授 入山章栄 氏

企業の持続的成長とイノベーション創出に関する両利き経営理論に関する講演でした。イノベーションの本質は、既にある「知と知の組み合わせ(パクリ)」であり、それを活用して既存事業を効率化・収益化する“知の深化”と、新しい事業領域や商品を探る“知の探索”を、バランスよく経営することが重要であるとの解説がありました。また、ご自身の社外取締役としての経験談や日本企業のイノベーション事例など、盛り沢山の話題を提供頂き、我々のイノベーションへの挑戦に対するハードルを緩和して頂いたと感じました。



【開催セッション 10/31～11/1】

【ダイセル西播磨研修センター(相生)】

◆「常勝集団のプリンシプル ～自ら学び成長する人材が育つ心のマネジメント～」

帝京大学スポーツ局 局長, スポーツ医科学センター 教授

岩出雅之 氏

帝京大学ラグビー部の監督として全国大学ラグビーフットボール選手権にて史上初の9連覇達成の原動力に繋がった、自律を促すための心のマネジメントについて講義を頂きました。自分で決めさせ・納得させ・期待を伝えること、勝利至上ではなく人間力向上を重視した相互に学び続ける文化醸成などの心理学的アプローチは、大学生と社会人の違いはあれども、我々自らのマネジメントスタイルを変えていくために参考になる点が多くありました。



◆「生成AIの進展と企業における活用可能性」

(株)松尾研究所 取締役, 東京大学松尾研究室 学術専門職員

金 剛 洙 氏

生成AIの急速な技術進化により産業分野での応用が拡大しており、将来的な競争優位の確保には早期の導入・活用が必要であることを認識しました。現状では日本企業の活用率は低く、「使い方がわからない」など認知不足や、情報の正確性や機密保護の確保といったリスクへの懸念が導入の障壁となっているとのことであり、教育や文化醸成の取り組みが必要であると感じました。講演

後のグループ討議では、まずはAIを学び・触れ・試行錯誤を始めようといった意見が多く交わされました。

◆特別企画「坐禅」

但馬出石宗鏡寺 住職 小原游堂 氏

初めて座禅を体験される方も多く、皆さん緊張した面持ちでしたが、ご住職より姿勢や呼吸、集中する方法など丁寧な解説を頂き、リラックスして臨めたと思います。坐禅は心を無にして自分自身と向き合う修行ですが、「無理に心を無にせずとも良く、自身の持っている雑念などを、心を整理することで客観的に捉えることで新たな一歩を踏み出せると受け止めると良い」とのアドバイスを頂きました。何にでも当てはまりますが、やってみる・続けてみることの大切さを学びました。



【幕張セッション 11/28～11/29

クロスウェーブ幕張(千葉)】

◆「幸せになる働き方 ～半径3メートルの幸福論～」

健康社会学者(Ph.D.) 河合 薫 氏

新卒キャビンアテンダント時代に、周囲の先輩や同僚が厳しさと愛情を持って自身に接してくれたことで仕事を前向きに面白く捉えられるようになったエピソードを踏まえ、身近な人と人とのつながりへの投資によりエンゲージメントに作用できるとの講演を頂きました。ちょっとした心遣い・声掛けなどを惜しまず意識して取り組んでいくことで、支え合いの文化が醸成し、職場の中にストレスや困難に立ち向かうのに意味があると思える感覚(有意義感)がメンバー間で広がっていくのだと感じました。

◆「リジェネレーションに何が必要か」

住友ベークライト(株) 代表取締役副社長執行役員

稲垣昌幸 氏

講演のラストは、本ゼミナールの大先輩である稲垣氏より講演という形で力強いエールを頂きました。企業として環境や社会の

再生に主体的に関わる重要性と、例として自社で取り組まれている将来の事業の柱を生み出す独自の研究開発活動の内容は、我々の今後の取り組みに一つの道を示して頂いたと感じました。また、ご自身のビジネス失敗談や教訓などの実践者としてのアドバイスは、非常に説得力があり、その時々で社会や顧客が何を求めているかを押さえたアプローチが必要であると腹落ちしました。



【最後に】

ご講演いただきました講師の皆様、充実したプログラムをご準備いただいた事務局と世話役の皆様へ厚く御礼申し上げます。また、グループ討議で悩みや気づきを共有させていただいた第51期の皆様方にも改めて御礼申し上げます。

4回のセッションを通じて討議時間のみならず懇親会やその後も時間の存在を忘れてしまうほど会話に夢中になり親睦を深めさせて頂きました。その中で、皆様の化学産業を・職場を良くしたいとの熱い思いを肌で感じる事ができ大変思い出深いゼミナールとなりました。51期の方々とは良き同窓として親交を継続し再会することを約束させて頂きました。

最後に本ゼミナールが今後も末永く続き、化学業界並びに化学工学に携わる方々の交流と発展に寄与していくことを祈念いたします。

(株式会社カネカ 畑中隆禎)

